

アフリカ経済の今後と TICAD VIへの期待

日本貿易振興機構（ジェトロ）

理事 平野克己

急成長を遂げてきたアフリカ経済

1980年代以降ほとんど成長していなかったアフリカ経済は、資源価格が高騰し始めてから一転して急成長を続けてきた(図)。少なくとも GDP 値で見るとアフリカ経済、特にサブサハラ(サハラ砂漠以南)地域の総生産額は、原油をはじめ資源価格の動向に強く影響されてきた。原油価格とアフリカ地域 GDP 双方の時系列の相関係数を測ると 0.97 にも達していて、これはロシアやサウジアラビアと同じレベルである。

2014 年後半からの原油価格急落を受け世界銀行(世銀)や国際通貨基金(IMF)はアフリカの経済成長率を下方修正し、今のところ 15 年の成長率を 3.5%内外と推計している。他方、ロシアや

ブラジルに関してはマイナス成長だったと推計している。アフリカに関してはそれでもかなり楽観的だ。その理由を世銀・IMF とも、「アフリカの経済成長を支えているのは資源輸出よりも旺盛な個人消費であり、したがって資源価格が低迷しても内需主導で成長を持続できる」と説明している。しかし、果たしてこの説明は妥当だろうか。

資源安、通貨安が与える大きな影響

資源高時代における高成長期の経済指標をみると(表)、サブサハラ・アフリカにおける外需の成長貢献はマイナスで、固定資本形成(投資)の貢献度も少ない。サブサハラ・アフリカの経済成長は圧倒的に内需、それも個人消費に支えられてきたのである。この点において世銀や IMF は正

図 サブサハラ・アフリカの地域 GDP と石油価格

